

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

冬季観光誘客による地方創生推進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道上川郡東川町

3 地域再生計画の区域

北海道上川郡東川町の全域

4 地域再生計画の目標

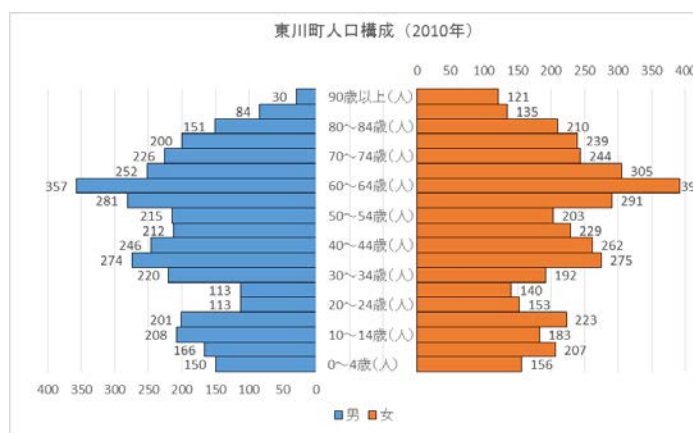
4-1 地域の現状

東川町は、北海道のほぼ中央に位置しており、大雪山を有する自然豊かな町である。旭川空港からも自動車ですぐと至便の距離にあり、写真を通じた国内外との交流による「写真の町」事業をはじめ、国内初となる公立日本語学校の開設、カナダ、ラトビア及び韓国との姉妹都市交流など国際交流が盛んとなっている。また、大雪山中腹の旭岳温泉、天人峡温泉を中心に観光業が主産業の一翼を担っている。

冬期間の東川町は、北海道においても特に平均気温が低く降雪量も多いことから雪質がよく、市街地北部にあるキャンモアスキー場や大雪山国立公園内のロープウェイが整備された旭岳スキーコースには、国内の若者を中心にスキーやスノーボード客が訪れ貴重な観光資源となっている。

4-2 地域の課題

東川町の人口は増加傾向にあるが、20歳から30歳までの階層が他階層に比べ著しく少ない状況にある。人口の維持・減少緩和を図るとともに、バランスの取れた人口構成を構築するためには若者の流出抑制を図る必要があるが、主要産業のひとつである観光業



は、夏季に比べ冬季の入込客数が2割程度と著しく少ないことから、年間を通して安定した雇用を確保することができず、若者が流出する要因の一つとなってい

る。このことから、冬季の観光振興が課題となっているが、冬季の貴重な観光資源であるスキー場の利用者は、旭岳で平成 25 年から平成 27 年にかけて-2.4%と減少傾向にある。また、国内のスキー・スノーボード人口は 770 万人とピーク時だった 1998 年の 4 割程度となっており、全国的な人口減少傾向から今後の回復が見込めない状況にあっては、外国人観光客の誘客が必要となっている。

4-3 目標

本事業は、本町が有する美しい自然環境や良質な雪、スキー場をはじめとする観光資源、空港に近い立地条件を活かし、写真の町の取り組みや多様な国際交流により本町が独自に形成したネットワークと協力企業のイメージやネットワークを活用し、「冬季海外観光誘客路開発事業」と「アルペンスノーボード国際大会開催事業」を一体的なプロジェクトして実施することで、冬季間の外国人観光客の誘客による観光業の振興から、年間を通し安定した雇用機会を創出することにより若者の流出抑制を図り、人口の維持、減少の緩和に資することを目的とするものである。

北海道における外国人観光客のスキー・スノーボード需要は高く、道央のニセコ地区には 12 月から 3 月の冬期間に、豪州を中心に約 38 万人の外国人観光客が訪れている。また、冬期間の入込は、年間の約 20%にとどまる日本人観光客と異なり、外国人観光客は約 50%と高く、外国人の観光需要が冬季においても高いものとなっている。特に近年は、本町とも交流のある韓国、東欧、北米からの外国人観光客が増加傾向にある。

本事業の実施により、道内他地域を訪れる外国人スキー・スノーボード客の取りこみと、北海道への冬季外国人観光需要を背景にした東川町でのスキー・スノーボード観光の訴求が図られ、本町への冬季外国人観光客の増加から、スキー場をはじめとする観光産業の再興が図られる。

【数値目標】

事業	冬季海外観光誘客路開発事業	アルペンスノーボード国際大会開催事業	年月
KPI	外国人宿泊者数	キャンモアスキー場外国人利用者数	
申請時	1. 3 万人	0. 5 千人	H28. 3
平成 28 年度	1. 4 万人	1. 2 千人	H29. 3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：冬季観光誘客による地方創生推進プロジェクト

(地域資源、文化を活用したヒトの流れの創出)

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本事業は、本町が有する美しい自然環境や良質な雪、スキー場をはじめとする観光資源、空港に近い立地条件を活かし、写真の町の取り組みや多様な国際交流により本町が独自に形成したネットワークと協力企業のイメージやネットワークを活用し、「冬季海外観光誘客路開発事業」と「アルペンスノーボード国際大会開催事業」を一体的なプロジェクトして実施することで、冬季間の外国人観光客の誘客による観光業の振興から、年間を通し安定した雇用機会を創出することにより若者の流出抑制を図り、人口の維持、減少の緩和に資することを目的とするものである。

北海道における外国人のスキー・スノーボード需要は高く、道央のニセコ地区には12月から3月の冬期間に豪州からを中心に約38万の外国人が訪れている。また、冬期間の入込は、年間の約20%にとどまる日本人観光客と異なり、外国人観光客は約50%と高く、外国人の観光需要が冬季においても高いものとなっている。特に、近年は本町とも交流のある韓国、東欧、北米からの外国人観光客が増加傾向にある。

本事業の実施により、道内他地域を訪れる外国人スキー・スノーボード客の取りこみと、北海道への冬季外国人観光需要を背景にした東川町でのスキー・スノーボード観光の訴求が図られ、本町への冬季外国人観光客の増加から、スキー場をはじめとする観光産業の再興が図られる。

(事業の内容)

・冬季海外観光誘客路開発事業

本町と文化交流のあるカナダ・キャンモア町、ラトビア・ルイエナ町及び

韓国寧越郡を始め、中国、タイ、ウズベキスタンの各町長、議員等の行政関係者、観光業関係者、写真関係者 30 名程度を招聘し、平成 28 年 11 月に 3 日間の日程で「東川町国際文化フォーラム」を開催する。

「東川町国際文化フォーラム」では、東川町観光協会や観光事業者を交えて海外の行政関係者や観光業者らと意見交換等を行い、東川町への外国人観光客誘客路の開発を行う。

当該フォーラムの開催に当たっては、ビザの発給や交通アクセス、宿泊施設の料金設定等、東川町への誘客ルートの設定や受入体制の整備について協議を行うとともに、各国からの参加者と今後の外国人観光客誘客へ向けたネットワークを構築し、定期的に情報発信を行うことで外国人観光客の誘客を図る。

また、フォーラム参加者が旭岳スキーコースやキャンモアスキー場、旭川空港からの交通手段、旭岳温泉をはじめとする宿泊施設についての視察を行い、外国語表記や食事、各国の風習や施設に求めるニーズについて意見交換を行い、宿泊施設の海外誘客受入体制の強化を図る。

・アルペンスノーボード国際大会開催事業

外国人観光客の誘客及び東川町の知名度向上を図るため、平成 29 年 3 月に、東川町のキャンモアスキー場を会場として、本町にゆかりのあるソチオリンピックスノーボード銀メダリスト・竹内智香選手やワールドカップ出場経験のある選手約 20 名を招聘し、国際アルペンスノーボード大会を開催する。

開催に当たっては、外国人観光客が多く訪れる札幌雪祭りや、同大会の協力企業である株式会社モンベルの会員向けネットワーク及び全国の店舗網を活用し、事前 P R を行う。

また、町内の日本語学校に在籍する東南アジア圏域を中心とした外国人留学生や、冬季海外観光誘客路開発事業により構築されたネットワークを通じて、外国人観光客の誘客を図る。

同大会の来場客に対しては、選手によるスキー・スノーボード教室を開催し、主に東南アジアをはじめとする雪になじみが薄くスキーやスノーボード経験のない外国人客に雪の楽しさをアピールし、リピート客の増加を図る。同時に本町の魅力あるスキーコースや雪質をアピールすることで、冬期間の外国人観光入込客数の増加を図り、町内事業者の観光収入増加と、スキー場等における雇用拡大を図る。

→各年度の事業内容

冬季海外観光誘客路開発事業

平成 28 年度

○東川町国際文化フォーラムフォーラムの開催

- ・開催時期 11 月（3 日間）
- ・開催場所 東川町内
- ・参加者 50 名（海外 30 名、国内関係 20 名）

誘客ルート設定や受入体制について協議を行い、会議終了後も情報交換や観光客の紹介斡旋等を図ることができるようネットワーク体制を構築。現地視察と地域の宿泊施設関係者との意見交換により、宿泊施設の海外誘客受入体制を強化する。

アルペンスノーボード国際大会開催事業

平成 28 年度

○アルペンスノーボード国際大会の開催

- ・開催時期 3 月上旬
- ・開催場所 東川町キャンモアスキー場
- ・招聘予定選手数 20 名
- ・来場者数見込 3,000 名（うち外国人 1,000 名）

ワールドカップ出場経験のある選手を招聘し、国際大会を開催する。大会終了後は、選手によるスキー・スノーボード教室を行い、スキー・スノーボード体験機会を設け、リピート客の増加を図る。

札幌雪祭りで外国語のパンフレットを配布し、大会と本町の PR により大会への集客を図る。

平成 29 年度以降大会の継続実施を図り、更なるスポーツ振興と誘客、知名度向上を図り、雇用の創出拡大につなげる。

(4) 地方版総合戦略における位置づけ

本町の写真文化首都東川町まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、「基本目標 1 人々が集う写真文化首都の創造（ひとの流れ）」の中で、地域資源を生かした魅力ある観光地の創造を定めており、本プロジェクトは、これら目標を達成するために位置付けられた事業である。また、総合戦略の基本目標として、「年間入込数（目標値 104.0 万人）」を定めており、本プロジェクトはまさにこの目標の達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施に関する客観的な指標（重要業績評価指標KPI）

事業	冬季海外観光誘客路 開発事業	アルペンスノーボード 国際大会開催事業	年月
KPI	外国人宿泊者数	キャンモアスキー場外 国人利用者数	
申請時	1. 3万人	0. 5千人	H28. 3
平成28年度	1. 4万人	1. 2千人	H29. 3

(6) 事業費

(単位:千円)

冬季海外観光誘客路開発事業	年度	H28
	事業費計	5,000
区分	補助金	5,000

アルペンスノーボード 国際大会開催事業	年度	H28
	事業費計	13,520
区分	委託料	13,520

(7) 寄附の見込額

(単位:千円)

冬季海外観光誘客路開発事業	年度	H28
	事業費計	5,000
	寄附額計	3,000
寄附法人	株式会社モンベル	2,500
	アウトドア企業	500

アルペンスノーボード 国際大会開催事業	年度	H28
	事業費計	13,520
	寄附額計	3,000
寄附法人	株式会社モンベル	2,500
	アウトドア企業	500

(8) 事業の評価方法（PDCA サイクル）

(評価の手法)

事業の KPI である外国人宿泊者数、キャンモアスキー場外国人利用者数について実績値を公表する。また、写真文化首都東川町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、外部有識者を含めた検証機関を構築し評価を行う。

(評価の時期・内容)

平成 29 年 5 月に事業評価指標をもって事業の効果を測定する。

(公表の方法)

町ホームページにて公表する

(9) 事業期間 平成 28 年 9 月から平成 29 年 3 月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

<アルペンスノーボード国際大会開催事業>

事業概要：

スキーやスノーボードによる海外からの誘客を図るため、毎年 3 月に東川町のキャンモアスキー場を会場に、本町にゆかりのあるソチオリンピックスノーボード銀メダリスト・竹内智香選手やワールドカップ参戦選手約 20 名を招聘し、国際アルペンスノーボード大会を継続開催し東川町の知名度向上を図る。

実施主体：

スノーボード国際カップ in 東川大会実行委員会

事業期間：

平成 29 年 4 月～平成 32 年 3 月

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

7-1 目標の達成に係る評価の手法

写真文化首都東川町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、外部有識者を含めた検証機関を構築し評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年5月に事業評価指標をもって事業の効果を測定する。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに東川町ホームページにより公表する。